

088.日経メディカル 聴く論文 (2022.09.12-09.16)

小児のCOVID-19後遺症発症率は3.7% 他

2022/09/16

2022年9月12日から9月16日に日経メディカルOnlineで紹介した5本の海外医学論文のエッセンスを日本語音声でお届けします。

■ [Apple PodCasts](#)■ [Google PodCasts](#)■ [Spotify](#)

(1) JAMA Pediatrics誌から 小児のCOVID-19後遺症発症率は3.7%

米国Colorado大学の研究グループは、2020年3月1日から2021年10月31日に米国の小児病院9施設を受診した21歳未満の患者を、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）検査結果に基づいて陽性者と陰性者に分類して、小児や青少年の後遺症を調べる研究を行い、陽性者と陰性者で検査から28～179日後までに何らかの症状を経験した人の割合の差は3.7%であり、小児では成人に比べ、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による後遺症の負荷は小さいようだと報告した。結果は2022年8月22日のJAMA Pediatrics誌電子版に掲載された。

(2) NEJM誌から オミクロン株でパクスロビドが有効なのは高齢者

イスラエルClalit Health Servicesの研究グループは、オミクロン株が主流だった時期に、ワクチン接種率が高い同国で、COVID-19治療薬ニルマトレルビル・リトナビル（パクスロビド）の投与を受けた患者と、受けなかった患者を対象として、入院と死亡を減らす有効性を検討したところ、65歳以上の患者では入院率も死亡率も明らかに減少していたが、40～64歳の患者では有意差が見られなかったと報告した。結果は2022年8月24日のNEJM誌電子版に掲載された。

(3) Lancet Infectious Diseases誌から 香港のCOVID-19入院患者でラゲブリオとパクスロビドの有効性を検証

香港大学の研究グループは、香港でオミクロン株が主流だった時期に、酸素投与が不要だった軽症から中等症のCOVID-19入院患者に、モルヌピラビル（ラゲブリオ）またはニルマトレルビル・リトナビル（パクスロビド）を投与し、傾向スコアがマッチする対照群の患者とアウトカムを比較する後ろ向きコホート研究を行い、これらの薬の使用により、死亡と重症化のリスクが減少していたと報告した。結果は2022年8月24日のLancet Infectious Diseases誌電子版に掲載された。

(4) Microbiology Spectrum誌から 迅速抗原検査はオミクロン株で感度低下の可能性

スイスBasel大学病院の研究グループは、SARS-CoV-2の迅速抗原検査キットとして利用されているRoche社とACON Laboratories社の製品を使用して、オミクロン株の検出感度について検討し、Roche社の製品はオミクロン株のBA.2とBA.5系統では以前の株よりも検出感度が低くなっていたと報告した。結果は2022年8月9日の

Microbiology Spectrum誌電子版に掲載された。

(5) JAMA誌から **テコビリマットを投与された米国のサル痘患者25人の症例報告**

米国California大学Davis校の研究グループは、2022年8月13日までにサル痘と診断された患者25人に対して、天然痘治療薬として開発されたテコビリマットを人道的使用した経験をまとめ、全身症状および病変の治癒状況、観察された有害事象などについて2022年8月22日のJAMA誌電子版に発表した。